

平成 29 年 8 月 17 日

対馬におけるカワウソの発見

琉球大学動物生態学研究室

長崎県対馬において、ツシマヤマネコの生態調査のために設置した自動撮影装置によって、2017 年 2 月 6 日にカワウソの動画が撮影されました。今回のカワウソの発見は日本における 38 年ぶりの生体確認となります。

日本におけるカワウソの情報

日本のカワウソは、明治時代までは日本全国に生息していましたが、毛皮や薬種を目的とした狩猟に加え、生息地の破壊によって、四国を除く地域では 1955～1960 年頃には絶滅し、四国でも 1980～1990 年代に絶滅したと考えられています(安藤 2008、佐々木 2016)。

対馬にも江戸時代まではカワウソが生息していた記録が見つかっています。

1979 年の高知県での目撃を最後にカワウソの生息確認は無くなり、環境省は 2012 年に発表した第 4 次レッドリストにおいて、ニホンカワウソ（本州以南亜種）*Lutra lutra nippon* とニホンカワウソ（北海道亜種）*Lutra lutra whiteleyi* を「絶滅」に指定しました。

「ニホンカワウソ」の分類学的位置づけについてはまだ未解明な点があります。日本に生息していたカワウソについては、ミトコンドリア DNA を用いた系統解析によって、神奈川県産と高知県産の個体では、ユーラシアカワウソとの分岐年代が異なり、遺伝的に異なることが報告されています (Waku et al. 2016)。

今回確認された個体について

撮影された動画から種の同定はできませんでした。また、この個体の由来については以下の 3 つの可能性が考えられます。

- ① 対馬において細々と生き残っていた。
- ② 韓国から泳いで渡ってきた：自然分布拡大。
- ③ 海外からなんらかの人間活動によって移動してきた：人為的分布拡大。

今後の調査について

環境省が7月からカワウソの糞や巣を探す痕跡調査を始めています。新鮮な糞が発見されれば、DNAを用いて種名や個体の由来など詳しいことが分かる可能性があります。この調査の結果は近いうちに発表されると思います。

カワウソの生息状況調査についてのお願い

現在、環境省が対馬におけるカワウソの生息状況調査を行っています。カワウソやツシマヤマネコなどの生息攪乱を引き起こす可能性がありますので、以下2点についてご協力をお願いします。

- ① カワウソに餌付けをしないでください。
ツシマヤマネコなどの野生動物の他にイエネコや野良犬など他の動物も誘引することになります。多くの動物が集まる場所を人為的に作ると、闘争や病気の感染を引き起こす可能性があります。
- ② カワウソの糞を見つけても持ち帰らないでください。
カワウソの生息状況調査中ですので、調査に混乱を来す可能性があります。

参考文献

- 安藤元一. 2008. ニホンカワウソ-絶滅に学ぶ保全生物学. 東京大学出版会. 東京, 233pp.
- 佐々木浩. 2016. 日本のカワウソはなぜ絶滅したのか. 筑紫女学園大学 人間文化研究所 年報 27: 95-111.
- Waku D, Segawa T, Yonezawa T, Akiyoshi A, Ishige T, Ueda M, et al. (2016) Evaluating the Phylogenetic Status of the Extinct Japanese Otter on the Basis of Mitochondrial Genome Analysis. PLoS ONE 11(3): e0149341. doi:10.1371/journal.pone.0149341.

【問い合わせ先】

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原 1

琉球大学理学部海洋自然科学科生物系 伊澤 雅子

izawa@sci.u-ryukyu.ac.jp 090-4588-7054